

日本新生児成育医学会 2025 年度 第 2 回理事会 議事録

日 時：2025 年 2 月 3 日（月）18：00～20：40

形 式：Web 会議システム Zoom を利用

出席者：高橋尚人（理事長）、荒堀仁美、落合正行、影山 操、北畠康司、日下 隆、河野由美、
佐藤義朗、東海林宏道、徳久琢也、豊島勝昭、中西秀彦、難波文彦、水野克己、森岡一朗、
山田恭聖、芳本誠司、和田和子（各理事）
早川昌弘（監事）、有光威志、小田 新（各幹事）

欠席者：諫山哲哉、長 和俊（各理事）、細野茂春（監事）、和田友香（幹事）

（敬称略）

議 事：

議事に先立ち、高橋理事長より定款 41 条に則り、出席者が開催可能人数に達しており、理事会が成立する旨説明があった。

1. 理事長報告

1) 通信理事会議決結果報告の件

議決を取ったものは 3 件、その他のお知らせなどは 4 件であった。

2) 2025 年度会計報告の件

10～12 月分までの会計として、2025 年度は全会員 2,607 名中、名誉・功労会員 161 名を除く 2,446 名のうち、延べ 1,752 名（71.6%）（1 月 23 日現在）より納入され、代議員費を合わせて 21,947,819 円の会費納入となった。

11 月に開催された joint congress の経費は「海外交流費」に計上している。

3) 日本先天性心疾患インターベンション学会より委員推薦の件

日本先天性心疾患インターベンション学会より「低体重児の動脈管開存症に対する経カテーテル動脈管閉鎖術管理委員会」の委員推薦依頼があり、診療委員会委員長の豊島理事、片山義規委員、委員外より増本健一先生を推薦した。

4) 令和 6 年度小児医学川野賞の件

本学会より 1 名を推薦したが、受賞にいたらなかった。

5) 第 129 回日本小児科学会学術集会プログラム委員の件

第 129 回日本小児科学会学術集会の大会長である長谷川俊史先生よりプログラム委員推薦依頼があり、本学会より日下理事を推薦した。

6) 国内 NICU 交換留学制度におけるアンケート実施への協力の件

現時点では協力はできず、継続審議となったことを依頼者へ伝えた。

7) 「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について」アーカイブ化の件

これまで学会ホームページの上部帯バナーにあった案内を削除し、「お知らせ」から過去のお知らせ（2021 年）に進み閲覧できるように導線を変更した。2021 年当時の対応ということがわかりやすくなった。

9) こども家庭庁 1 か月児健診マニュアルの件

2024 年度第 4 回理事会で審議し、理事長一任となったこども家庭庁で作成を進めている「1 か月児健康診査マニュアル」に研究協力機関として本学会名を掲載することについて、審議で出た意見に回答いただき、学会名を掲載することを承諾した。

10) 「DPC/MDC 毎の診断群分類見直し技術班」班員交代の件

これまで当学会より中村友彦先生が参加されていたが、佐藤理事に交代した。

- 11) 榎屋製菓より「被災地の避難所等で生活をする赤ちゃんのためのQ & A」イベント会場での配布の件
2025年2月13日(木)～14日(金)開催の「2025年OHKI春夏用カテゴリー提案商談会」に出展する榎屋製菓より、「被災地の避難所等で生活をする赤ちゃんのためのQ & A」を会場で配布したい旨、問い合わせがあり承諾した。
- 12) 理事長職務報告
通信理事会の発信、転載許諾申請の承認、問合せ対応を行った。

2. 審議事項

第1号議案 理事選出選挙の件(高橋理事長)

本学会の理事の選出は、代議員250名より立候補を募り、代議員の投票(15名の不完全制限連記、無記名投票:定款施行細則18条7項)により得票数の多い順に15名の理事が選出される。その後、定款施行細則18条9項に則り、5名の理事を追加してきた。

ここ何回かの選挙において、「地域性」「専門性」「男女共同参画性」の各項目より1名を選出する方式となっていたが、「上記3項目を考慮して5名を選出する」など、推薦方法の見直しを図ることとした。また、理事選挙の女性理事数のクォータ制導入など、今後、理事長、副理事長、総務委員長・監事で検討し、理事会で上申することが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

理事選挙について、1人あたり15票をもつ経緯についての質問や、組織票について懸念する意見があがった。高橋理事長より、少なくとも本学会が公益社団法人となった時からはこの形式であることが説明され、組織票については他学会の選挙も含め問題となっているため、票数や選挙方法についても併せて検討していくことが説明された。

第2号議案 外部理事、外部監事選出の件(高橋理事長)

2025年4月より「公益法人法」が改正され、公益社団法人のガバナンスの強化と、透明化することを目的とし、外部理事、外部監事を置くことが義務づけられた。2025年4月から施行されるが、経過措置があり、現任の理事・監事が交代する際に新しい法人法に則って、外部理事・監事を置くこととなる。

よって本学会は、現理事の任期(2年)満了である令和8年(2026年)に開催される社員総会までに選出する必要がある(※監事は任期(4年)満了である令和10年(2028年)に開催される社員総会まで)。

ただし、定款を改正する必要があるため、今年度(2025年)の定時社員総会で定款の変更を発議し、承認される必要がある。

外部理事および監事は本学会の理事、代議員、名誉・功労会員以外で、当学会に10年以上所属していない者が条件となる。

和田和子理事より、同じ公益社団法人である日本小児科学会でも検討していることが報告され、他学会についても情報があれば共有することとした。

今後、理事長、副理事長、総務委員長・監事で検討して理事会で上申することが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

第3号議案 名誉会員規定改正の件(高橋理事長)

名誉会員は、定款施行細則第1条2項に則り推戴されているが、②学術集会の会長に就任した者が必須となっている。現規定だと理事長就任者が名誉会員にならないため、定款施行細則に「③理事長に就任した者」を追加することが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

第4号議案 教育セミナー開催における予算見直しの件(中西理事)

2025年度の教育セミナー会場費(会場・宿泊・飲食を含む)の予算として300万円を計上していたが、今回、会場・宿泊費の見積りが約450万円となり、昨今の値上がりに対応できないことが報告された。教育委員会では食事代を委員の先生が負担して経費を減らすことを検討しているが、教育セミナーは若手医師にとって、

横のつながり、縦のつながりがもてる貴重な機会となっているため、300 万円の予算から増額したいと中西理事より説明があった。

以前は 5 人部屋など大部屋で宿泊していたが、そのような経費削減はできないか質問があり、現在は会場となるホテルの規定に合わせていることが報告された。

参加費やチューターの人数の見直し、企業協賛を得ること、また教育セミナーの参加者の進路調査など、費用対効果を目に見えるかたちで提示するべきではないかと意見があり、これらについて委員会で検討することとなった。

高橋理事長より本学会の財政が以前と比べて改善していることもあり、予算を引き上げて 500 万円とすることが提示され、出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

第 5 号議案 IPOKRaTES 開催における共催費の件（難波理事）

2023 年度第 2 回理事会で IPOKRaTES JAPAN 開催にあたり、50 万円の共催金を学会から支払うことが決まった。今年、2025 年 10 月に埼玉県川越市で開催するが、参加者が 300 名いれば赤字になることはなく、また IPOKRaTES 側からも赤字にならない配慮があるようだが、昨今の情勢に伴い、共催金を 50 万円から 100 万円に増額するか検討した。

前回、香川で開催した際は会場費と運営費は主催国（日本）負担、IPOKRaTES の負担は講師の宿泊費と交通費のみであり、日本への支援はなかったことが報告された。

次回理事会で収支見込を提出し、共催金の増額について継続審議とした。

第 6 号議案 award 設立の件（難波理事）

昨年、仁志田博司賞が設立された。欧米の学会ではこのような賞がたくさんあり、日本でも同様に日本の新生児医療に功績のあった先生の名前を冠した award を設立すべきではないか、と提案があった。

仁志田博司賞は仁志田学校同窓会より「仁志田博司賞の設立とその賞金」と使用目的を提示した寄附金であった。今後、新たに賞を設立するのであれば、どのような賞で、その財源はどのようにするのかを次回理事会で提示することとし、継続審議とした。

第 7 号議案 学会ホームページ会員サイト内の薬事委員会のサイトに「臨床試験（特定臨床試験、治験を含む）募集情報」を追加掲載の件（落合理事）

現在、会員専用サイトの薬事委員会のサイトに

- ・『薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例』ご報告のお願い
- ・「医療用医薬品添付文書の妊婦・授乳婦に関する禁忌等の記載内容の変更を希望する薬剤調査」へのご協力のお願い

を掲載している。

会員へ情報を周知することで症例の集約を推進し、試験の成否に貢献することを目的に「臨床試験（特定臨床試験、治験を含む）募集情報」を追加掲載することが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

説明文を付けて、それぞれの試験名のパナーボタンを作成して、クリックすれば募集情報にリンクする仕様とする。

第 8 号議案 フォローアップ認定医制度の審査基準、申請書類改正の件（河野理事）

前年度、審査の過程でいくつか問題点があり委員会で検討した結果、申請の基準、申請書類を改正することとした。

2025 年暫定認定医の申請にかかる症例要約記載時の注意事項や分野別到達目標の注意事項をホームページに掲載する。また、改正に併せて認定医制度の規定施行細則の文言を変更することが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

第 9 号議案 「Clinical Engineering 共働委員会」新設の件（日下理事）

前年度、委員長をしていた学会将来構想委員会で議題としてあった、NICU の特定臨床工学技士の養成につ

いて、日本臨床工学技士会（会員数：約 25,000 人）と協議する機会があった。その中で NICU 専門の特定臨床工学技士の養成を行いたいため、本学会に協力依頼があった。

- 1) 臨床現場での臨床工学技士の働きを強化する
 - 2) NICU 内でのタスクシフト / シェアに寄与できる
 - 3) NICU における生命維持管理装置の点検・管理することにより医療安全が向上する
 - 4) 本学会に入会していただき、会員数の増加に寄与できる
- 等の双方向的な効果があると考えられる。

認定医制度については日本臨床工学技士会が管理し、本学会はその養成をサポートすることについて、今後学会将来構想委員会で検討していくことが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。また、在宅医療も視野に入れることを提案することとした。

第 10 号議案 医師以外入会の件（高橋理事長）

以前本学会から退会勧告をし、退会となった医師以外の医療従事者より、再入会の申込があった。学術集会での発表と新生児医療の現状や最新の知見を習得したいことが再入会希望の理由である。

理事、監事より意見があがり再入会を許可するかどうか、継続審議とした。

第 11 号議案 施設連絡網の件（高橋理事長）

本学会の施設間の情報共有のあり方について、施設代表を設置し、総務委員会で連絡網を作成することが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

第 12 号議案 厚生労働省国際事業応募協力の件（難波理事）

埼玉医科大学総合医療センター小児科 井上信明先生より厚生労働省が主導する「令和 7 年度医療技術等国際展開推進事業」への応募にあたり本学会に協力依頼があった。

マレーシアに新生児医療を輸出する事業であり、将来的に超早産児の管理を検討しているが、まずは低酸素性虚血性脳症（HIE）に対する診療の質向上に向けた人材育成支援事業となる。

本学会への依頼は「診療ガイドラインを作成する際のその助言（ガイドラインの内容と作成工程について）」と「マレーシア国内の新生児関連学会との連携、協力関係の構築」であり、費用に関しては本学会で負担することはなく、本事業にかかる渡航費などは先方負担となる。

本学会が協力することについて出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

第 13 号議案 新生児シミュレーショントレーニング普及推進 WG 委員追加の件（中西理事）

新生児シミュレーショントレーニング普及推進 WG に齊藤明子先生（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院）を選任することが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

3. 第 68 回学術集会（中村会長）

2024 年 11 月 8 日（金）～ 10 日（日）、ホテルブエナビスタ（松本）

日本新生児看護学会：11 月 9 日（土）～ 10 日（日）

テーマ「Family centered care のこれから」

4. 第 69 回学術集会（高橋会長）

2025 年 11 月 13 日（木）～ 15 日（土）、パシフィコ横浜 会議センター

テーマ「激動の社会の新生児医療～未来への勇気と希望～」

日本新生児看護学会：11 月 14（金）～ 15 日（土）

テーマ「激動の社会の中の新生児看護—伝え続けること・変えていくこと—」

懇親会を 11 月 13 日（木）18：30 ～ 「ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル」で会費を 5,000 円として開催予定。

委員会企画については簡単な内容、会場規模、時間、座長を大会長に提出する。

5. 第 70 回学術集会（森岡会長）

2026 年 11 月 20 日（金）～ 22 日（日）、パシフィコ横浜 ノース

6. 第 71 回学術集会（日下会長）

2027 年 11 月 25 日（木）～ 27 日（土）、香川県に新設されたアリーナをメイン会場として開催予定

7. 各種委員会報告

1. 国際渉外委員会（難波委員長）

1) IPOKRATES JAPAN について

- ・開催時期：2025 年 10 月 16 日（木）～ 18 日（土）の 3 日間
- ・開催場所：ウェスタ川越（埼玉県川越市）
- ・中国・長沙（開催時期：2025 年 10 月 19 日（日）～ 21 日（火）の 3 日間）との joint
- ・テーマ：Prevention and Treatment of Prematurity-related Morbidities
- ・講演者：Phyllis A. Dennery, Souvik Mitra, Josef Neu, Tetsuya Isayama, Anup Katheria, Peter Dargaville, Hirofumi Sawada, Ju-Lee Oei, Barbara Schmidt, Haresh Kirpalani, Douglas Campbell（11 名）
- ・プログラム：ワークショップの開催を新生児シミュレーショントレーニング普及推進 WG に依頼した。
- ・運営事務局：株式会社 MA コンベンション

2) 第 7 回台韓日 Joint Congress について

- ・日 時：2025 年 10 月 26 日（日）
- ・会 場：台南市（台湾）
- ・Travel Awards：学術奨励賞・学会論文賞と、学術集会優秀演者から選出予定
- ・役割者（座長、特別講師、理事長、委員長）、Travel Awards 受賞者を派遣予定

3) 第 6 回日台韓 Joint Congress 開催報告

- ・日 時：2024 年 11 月 9 日（土）8：30～15：30
- ・会 場：ホテルブエナビスタ（長野県松本市）
- ・参加者：招待者 6 名（台湾・韓国からの特別講師・座長・理事長）
海外演者 2 名（米国・スウェーデンからの特別講師）
海外参加者 38 名（台湾：32 名，韓国：6 名）
委員会関係者 8 名（高橋理事長，楠田座長，国際渉外委員 6 名）
学術集会参加者 多数
- ・演 題：招待講演 5 題
一般口演 10 題（日本：4 題，台湾：3 題，韓国：3 題）
一般ポスター 22 題（日本：11 題，台湾：10 題，韓国：1 題）
- ・協 定：3 か国理事長による MOU を締結
- ・諸経費：主要な経費として
招待者 6 名国内交通費（羽田－松本）
招待者 6 名宿泊費（2 泊）
Joint Congress ホームページ制作費
Joint Congress ポスター等会場設備費

2. 薬事委員会（落合委員長）

- 1) 日本医師会疑義解釈委員会より供給停止予定品目検討依頼があった。
【06 疑 1034】【06 疑 1035】
- 2) 「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例」の募集をしたが、情報はなかった。
- 3) 「医療用薬品添付文書の妊婦に関する禁忌等の記載内容の変更を希望する薬剤調査」への協力依頼をしたが、情報はなかった。
- 4) 第1回薬事委員会開催（2024年12月16日（月））
委員紹介、運営規定改訂、委員会業務と展望（審議事項含む）
- 5) サーファクテン[®] 気管注入用 120mg が田辺三菱製薬から富士製薬工業への製造販売移譲について、富士製薬工業より原料、製法、製造所ともに変更なしとの回答があった。
- 6) ヒドロキシクロロキン（プラニケル[®]）の6歳未満禁忌条項削除
日本小児呼吸器学会薬事委員 岡田邦之先生、長 和俊先生とサノフィ株式会社と Web 面談をした。
日本リウマチ学会より「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」へ関節リウマチと若年性特発性関節炎への適応拡大を要望（年齢制限なし）。
3. 用語委員会（山田委員長）
 - 1) 日本小児科学会用語委員会から、『日本小児科学会用語集』記載の「超早産児（extremely immature infant）」を「超早産児（extremely preterm infant）」へ修正、「未熟児（premature baby/premature infant）」の記載を削除する是非について、本学会用語委員会に諮問があった。委員会で検討し、通信理事会承認後、以下の提案を日本小児科学会用語委員会に報告した。
 - ①「超早産児（extremely immature infant）」を「超早産児（extremely preterm infant）」に変更することを提案した。
 - ②「未熟児（premature baby/infant）」の記載を残し、“現在では「早産児（preterm baby/infant）」が一般的である”と但し書きをつけることを提案した。
（「但し書き」については、他の分野との整合性もあるので小児科学会用語委員会の方針に従う）
 - ③「早産児／早期産児（preterm infant）」の記載を「早産児（preterm baby/infant）」に変更することを提案した。
4. 広報委員会（水野委員長・代 高橋理事長）
 - 1) 学会公式 X、広報 X を運用している。
5. 病気・ケアの解説作成 WG（長谷部 WG 委員長・代 高橋理事長）
 - 1) コアメンバーで月に1回程度オンライン会議を開催し、進めている。
6. 医療安全委員会（影山委員長）
 - 1) サーファクテン[®] 気管注入用 120mg の田辺三菱製薬から富士製薬工業への製造販売移譲にあたり、富士製薬工業からの問い合わせ（「サーファクテン[®] 気管注入用 120mg 専用ディスポーザブル採液針 P の使い方」という資料の承継について）に対して、本委員会で議論したうえで若干の変更を依頼し、引き続き本委員会の監修とした。
7. 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）
 - 1) 通信理事会で以下を審議し、承認が得られた。
 - ①ベイフォータスもシナジスと同じように診療報酬（保険請求）上、NICU 入院中（退院前）に投与できるような DPC 制度を要望する要望書を提出（通信理事会承認後 2025 年 1 月 6 日（月）に厚生労働省へ提出した）。
 - ②ベイフォータスとシナジスの 2 剤の適応については地域や保険適応期間（流行期間）に応じて、その児にどちらの薬剤が投与可能かを判定できるエクセルシートを作成し、本学会のホームページから自由にダウンロードできるよう 2024 年 12 月 27 日（金）に公開した。

- 2) 以前本学会と日本小児呼吸器学会での共同作成が承認されて発刊した、『小児 RS ウイルス呼吸器感染症ガイドライン 2021』の改訂作業を開始した。印税は日本小児呼吸器学会と折半で本学会に入金されることになっている。2026 年の発刊を目指している。
 - 3) 本学会も委員として参加した日本小児感染症学会主導で作成された「先天梅毒診療の手引き」が、Executive Summary として Pediatric Infectious Disease Journal にアクセプトされた。
8. 男女共同参画推進委員会（芳本委員長）
- 1) 委員会名の変更を検討している。
 - 2) 理事選挙へ女性理事数のクォータ制を導入すべきか検討した。次回理事選挙に間に合わせるには 2025 年度社員総会での承認が必要となる。
 - ・委員会委員の男女比も配慮する。
 - ・地域偏在の課題（ひとり代議員県，女性代議員不在県が複数存在）。
9. 医療の標準化委員会（諫山委員長・代 高橋理理事長）
- 1) 「早産児の動脈管開存症の診療ガイドライン」と「早産児の慢性肺疾患の診療ガイドライン」の科学的根拠と推奨（CoSTR）の原案が完成。2025 年 2 月にパブリックコメントを行い，4 月頃に完成版を公開予定。
 - 2) 「早産児の栄養管理ガイドライン」の作成メンバーを募集し，既存の JEBNeo メンバーからの希望者も合わせて 158 名の参加希望があった。2025 年 1 月に Kick off meeting を行う予定。
 - 3) 「新生児の薬剤ガイドライン」を薬剤班で作成中。
 - 4) 「極早産児の長期予後に関する Umbrella review」を，厚労科研の河野班と共同で行っている。
10. フォローアップ認定医制度委員会（河野委員長）
- 1) 日本周産期・新生児医学会の教育委員会より，学術集会でフォローアップに関するワークショップ（WS）を開催するにあたり協力依頼があった。委員会内のメール審議を経て協力内容を決定した。本学会の学術集会においても講習会あるいは WS の開催を予定している。
 - 2) 2025 年 1 月 15 日（水）に 2025 年度第 1 回委員会を開催した。2025 年度の申請にあたり，症例要約の作成の基準と注意点の追加・修正，分野別到達目標についての注意事項の追加を検討した。
11. 診療委員会（豊島委員長）
- 1) 2024 年 11 月 18 日（月）日本小児科学会 第 2 回小児慢性疾病委員会へ出席した。
 - 2) 2024 年 12 月 26 日（木）日本先天性心疾患インターベンション学会，日本小児循環器学会，本学会合同の「低体重児の動脈管開存症に対する経カテーテル動脈管閉鎖術管理委員会」へ出席した。
 - 3) 2025 年 1 月 21 日（火）に 2025 年第 1 回診療委員会を開催した。
12. 学術委員会（日下委員長）
- 1) 2025 年度佐多フェローシップキングスカレッジ・プログラム留学助成は選考の結果，諫山理事，難波理事より推薦があった藤本健志先生（埼玉医科大学総合医療センター）に決定した。
13. 教育委員会（中西委員長）
- 1) 第 68 回学術集会 教育委員会企画ワークショップを開催した
「意外と教えられていない？－エキスパートから学ぶ学会プレゼンテーションの極意－」
日時：2024 年 11 月 10 日（日）8：20～9：50
座長：杉浦崇浩委員，中西秀彦委員長
講演 1：大阪大学小児科 北畠康司先生（20 分）
講演 2：筑波大学芸術系 田中佐代子先生（20 分）
講演 3：岐阜県総合医療センター 寺澤大祐先生（20 分）
模擬発表：岐阜大学医学部医学科 6 年西川将成氏の実際の演題を各エキスパートが指導し，進化した演題を発表

- 2) 第 28 回教育セミナー
実行委員：久保田真通委員，鷺尾洋介委員
日 時：2025 年 8 月 2（土）～ 4 日（月）予定
会 場：倉敷アイビーホテル（岡山県倉敷市）
参加費：未定
- 3) 第 11 回医学生・研修医向け NICU 入門セミナー開催予定
実行委員：柳 貴英委員
14. 慢性期 iNO 保険収載 WG（中西 WG 委員長）
 - 1) 第 68 回学術集会
薬事委員会・医療の質向上委員会・慢性期 iNO 保険収載 WG 共同企画ワークショップを開催した。
テーマ：「新生児医療に適切な医薬品を届けるために私たちに何ができるのか」
 - 2) 急性期以降 iNO 臨床使用に関するエビデンス抽出のためのスコーピングレビューがアクセプトされた。
 - ・研究担当者：加藤 晋先生
 - ・Kato S, et al. “Scoping review of initiation criteria for inhaled nitric oxide in preterm infants after 7 days of age”. BMJ Open (bmjopen-2024-087740)
 - ・BMJ Open 2024 ; 14 : e087740. doi : 10.1136/bmjopen-2024-087740
 - ・学会名を共著者に記載
 - 3) 慢性期 iNO の本邦の NICU における実態調査アンケート案の作成と実施
 - ・宮田昌史先生がアンケート結果に関する論文執筆中
 - ・現在ドラフト第 1 弾が完成し，近日中に投稿予定いずれも投稿の際には，学会名を謝辞に記載予定
 - 4) 上記論文と NRNJ からの論文を基に，保険収載に向けて申請する予定
 - ・PMDA 以外の経路として，「55 年通知」での申請も考慮中
15. 新生児シミュレーショントレーニング普及推進 WG（甘利 WG 委員長・代 中西理事）
 - 1) 第 3 回 NSim セミナー開催
 - ・2024 年 11 月 10 日（日），第 68 回学術集会の 3 日目午前中
 - ・受講者 24 名（新生児専攻医 12 名，小児科専攻医 12 名）
 - ・「気管挿管」・「急変対応」・「胸腔穿刺」・「臍カテ」の中から 3 テーマをローテーションで実施
 - ・指導者 22 名：WG メンバー 13 名，WG 外の指導者補佐 9 名
 - ・レールダール，TM カンパニー社からそれぞれマネキンを無償で借りした。
 - 2) 第 68 回学術集会で NSimWG の活動について演題発表
 - ・「新生児医療におけるシミュレーション基盤型トレーニングの開発・実践と，トレーニング受講者に与えた影響の調査」
 - 3) 2025 年度（第 2 期）WG 活動
 - ・第 1 回全体ミーティングを 2024 年 12 月 2 日（月）に開催した。
 - ・今期も学術集会での NSim セミナーを開催していくとともに，学術集会以外での NSim セミナー単独開催（大都市圏だけでなく地方も含めて），これまで無料としていた受講料の有料化，指導者の養成などを検討し，取り組んでいく。
16. 学会誌編集委員会（東海林委員長）
 - 1) 2025 年度第 1 回編集委員会を 2024 年 12 月 5 日（木）18：00 ～オンラインで開催
委員変更に伴い，委員の業務，投稿原稿への対応を再確認した。
 - 2) 日本新生児成育医学会雑誌 37 巻 2 号の特集テーマを協議

特集テーマは「NCPR 過去と現在と今後（仮）」とした。

1. 「総論」：細野茂春先生
2. 「本邦における新生児蘇生の歴史」：飯嶋重雄先生
3. 「NCPR 体制の構築」：田村正徳先生
4. 「医療者教育としての NCPR」：加部一彦先生
5. 「NCPR の今後」：杉浦崇浩先生

今後の特集テーマ候補として、「CLD-PH」「基礎研究」等があがった。

17. 社会保険委員会（佐藤委員長）

- 1) 令和 8 年度診療報酬改定に向けた意見募集を、学会員（本学会の他、日本周産期・新生児医学会）、および新生児医療連絡会会員に行い、それを元に新生児系合同社会保険委員会（日本新生児成育医学会、日本小児科学会、日本周産期・新生児医学会、日本新生児看護学会）にて議論し、下記について提案することが決定し、内科系学会社会保険連合（内保連）の意向調査に提出した。

【日本新生児成育医学会】

- ・重症新生児管理料の適応拡大
- ・長期入院児の算定（慢性期）
- ・フォローアップ（新版 K 式 /WISC/ 小児科療養指導料）

【日本周産期・新生児医学会】

- ・新生児発達支援充実加算
- ・母乳栄養管理加算
- ・ハイリスク児成育支援料

【日本小児科学会】

- ・新生児早期静脈栄養管理加算
（遠隔診療）（搬送）

【日本新生児看護学会】

- ・重症児対応体制強化管理料における専門性の高い看護師の配置

今回は見送りとしたが、「NICU/GCU 加算の対象疾患の見直し」を令和 10 年度改定の提出目標とし、実態調査を行っていく。

18. 倫理委員会（北畠委員長）

- 1) 2025 年度第 1 回倫理委員会を 2025 年 1 月 8 日（水）に開催した。
 - ・「重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドライン」に関する活動を継続し、2025 年度は学術集会でのワークショップ開催とウェビナーの開催を目指す。
 - ・出生前診断における新生児科医の関わりを深めるために、出生前コンサルト小児科医の目指すべき関わり方についてウェビナーやシンポジウムの開催を検討する。

19. 学会将来構想委員会（和田和子委員長）

- 1) 第 68 回学術集会アンケート結果報告
 - ・回答者は 141 名であった。初日に一般演題を集約したこと、ポスター発表がなかったことについては賛否があった。
 - ・プログラム内容は多くは好評であったが、偏りがあるといった意見もあった。
 - ・2 会場であったことやホテルの確保について改善を求めるコメントがあった。

20. 医療の質向上委員会（長委員長）

報告なし

21. 災害対策委員会（徳久委員長）

報告なし

22. 英文誌 WG (和田 WG 長)

報告なし

23. 利益相反委員会 (山田委員長)

報告なし

24. 総務委員会 (荒堀委員長)

報告なし